

博物館だより

1991.10
第7号

大津市歴史博物館

開館一周年記念特別展 10月19日～11月24日

旅人からのメッセージ

「街道・宿場・旅」を開催

大津市歴史博物館も、おかげさまで開館一周年を迎えることができました。そこでそれを記念し、十月十九日から記念特別展を開催します。街道の国・近江の歴史を、約二〇〇点の展示資料で紹介するものです。カラー写真パネルやイラストもふんだんに盛り込み楽しいものになっています。御期待ください。



大日本五道中図屏風(三井文庫所蔵)

近江の国は古来、日本の中心に位置し、東西日本を結ぶ交通の要所として時の為政者の注目を集めてきました。琵琶湖を挟み、東側に東海道、中山道、朝鮮人道、西側に北国海道(西近江路)、若狭街道などが通り、近江を中心に四方へとつながる道の網の目のように走っていたのです。特に江戸時代は、琵琶湖の最南部に位置する大津は、琵琶湖水運の主要な港町としてはもちろん、東海道五十三次の最終の宿場として、また北国海道と東海道の分岐点として百貨集う都市だったので、街道を探ることは、近江そして大津の歴史を探ることに他ならないといえるのです。

さて街道は、幾多の町や村、山や川をつらぬき、全国にのびています。人々は、その街道を通り、さまざまなものに出会います。江戸時代、人々は見知らぬ土地の名所に想いを馳せ、ようやく貯めたお金をふところにも未知の旅へと出発しました。庶民ばかりでなく、大名は参勤交代で街道を行き、外国からの使節団もまた街道の人となりました。そのなかで、数多くの街道を描いた屏風絵がつけられ、旅のガイドブック、旅のマニュアルなども出版され、人々はその絵を眺め、本を手にとり、旅への憧れをつのらせたのでした。

本展ではそれら江戸時代の街道や宿場、そして旅に焦点をあて、当時の街道を描いた絵画、各地の名産、大名や外国使節から庶民にいたるまでの旅の風俗などをあらわす実物資料約二〇〇点(重要文化財四点を含む)を展示し、先人からのメッセージを皆さんにお伝えたいと考えました。そしてさらに、交通の要所である湖国・近江のそういった特色を見直すきっかけとしていただければ幸いです。

特別展の内容

特別展では次のような展示資料を展示し、皆さんをお待ちしています。

大日本五道中図屏風（三井文庫蔵）

江戸時代の五街道と各宿場、街道沿いの風景が鮮やかな色彩で、八曲二双の屏風に描かれています。総延長は二〇メートルにもほります。

伊万里染付五十三次文大皿（東京国立博物館蔵）

直径約五〇センチの伊万里焼の大皿に、東海道五十三次の各宿場の絵が、双六風に描かれたものです。東海道名所図屏風（大津市歴史博物館蔵）

六曲一雙の屏風のなかに、東海道の風景が色鮮やかに描かれています。なかでも目を見張るのは、



伊万里染付五十三次文大皿（東京国立博物館蔵）

五六〇名にのぼる旅人がいきいきと描かれていることです。さまざまな旅の風俗を今に伝える屏風絵として貴重な資料といえます。

近江の名産コーナー

大津算盤師看板や御針所看板（大津市）、また道中薬として知られた和巾散看板（栗東町）や赤玉神教丸看板（彦根市）、姥ヶ餅焼の餅皿（草津市）、小幡人形（五個荘町）など、近江の街道筋の名産を紹介します。

紀州藩参勤交代行列図（堺市博物館蔵）

参勤交代行列図は行列のみを描いたものが一般的ですが、今回展示する絵巻は、沿道で見物する人々も描かれ、また行列の絵も漫画風で、楽しいものになっています。歩くのに疲れてお付きの武士に助けられている従者、ふんどし姿の荷物持ちなど、興味深い発見がいろいろあります。

朝鮮人来朝図（神戸市立博物館蔵）

江戸時代、幕府が正式に外交関係を結んでいたのはお隣の国・朝鮮だけでした。江戸時代、朝鮮国王は五〇〇名にのぼる使節団を江戸に派遣し、その行列は華やかなもので、見物する人々もお祭り気分でした。

庶民の旅の携帯品

今も旅の荷造りはいかに少なくしようかと苦心の種です。ここでは江戸時代の旅の荷物が、いかにコンパクトになるように工夫されていたか、そのアイデアの数々を紹介します。

八種類の道中薬を入られる折り畳み式薬袋、組み立て式の枕、延ばせば高さ三〇センチくらいになる折り畳み式輦燭立てなど。



携帯用薬袋（江馬すま子氏蔵）

その他、お金を隠せる脇差型銭入れ、現在のウエストポーチのような銭入れや小物入れなど、数多くの携帯品を使い方とあわせて紹介します。

なお、会期中に当館講堂において展覧会に関係した講演会・展示品解説を開催する予定をしております。記念講演会「日本の街道と近江」学習院大学名誉教授 児玉幸多先生が十月二十六日（土）、特別講演会「近江の道とその文化」当歴史博物館館長・木村至宏が十一月二十三日（土）、展示品解説「徹底研究・江戸の旅」本館学芸員が十一月二日（土）にそれぞれ行います。詳しくは市歴史博物館へ。

近江の絵馬展終わる

平成三年八月三十一日から九月十五日まで、本館企画展示室で第三回企画展「庶民のいのり―近江の絵馬」が開催され、好評のうちに終幕を迎えました。

一般公開に先立ち八月三十日、本企画展に係りした市内外の方々約九〇人を迎え開場式を行いました。

この展覧会では、近江を中心に二百件の絵馬を一堂に会し、絵馬の歴史や諸相を、美術的に貴重な大絵馬から素朴な小絵馬まで、色々な構図、色彩の絵馬を交えて展示しました。絵馬というと、神社に見られる小



絵馬を連想する人がほとんどなだけに、大小様々な絵馬を展観した本展は、多くの方に絵馬の世界の歴史的な深さや豊かさを再発見していただけたようです。開催に先立ち公募した、「現代の絵馬」も三十面応募いただき、ユニークな力作の数々に、観覧者も目を和ませ見入っていました。会期中の観覧者数は、二、六一二人でした。

収蔵品紹介⑥

穴太遺跡出土の温突

七世紀前半
長さ四・二メートル

歴史博物館前の広場には、比叡山麓の穴太遺跡（弥生町）で発見された特殊カマド（温突）が覆屋に保存、展示されています。この種の遺構は、我国で唯一のもので一緒に出土した遺物から七世紀前半頃と推定されています。これは、国道一六一号バイパスに係りした発掘調査で発見されたもので、平面形態はS字状を呈しており、約四メートルが残っていました。このカマドは、焼成室（カマド本体）と煙道からなっており、焚口は、七五×三〇×一五センチの石が盛土上に架けて造られており、幅五〇センチ、高さ一五センチを測ります。焼成室は、七〇×八〇センチを測り、床面には粘土が貼られ、煮炊き用の土器を支える支脚用の石が二個置かれていました。煙道は、焚口に向かって左側に付き、なだらかに傾斜して約二メートル延びたところで右に折れて約二・二メートル延びていました。煙道の構造は、石組の溝状を呈して最下段に三〇×一五センチ程の石を据え、二〇×五センチ程の石を積み上げており、最も残りの良い部分で三段が残り、持ち送りの状態が判ります。煙道の先端は後世に削平されて石が抜き取られていたため、どの様な構造になっていたかは判りませんが、煙道の石の表面は火をうけて赤色に変色し、煤が付いていました。この遺構は、建物の床下の部分のみが残っていたため、上部の構造がどの様なものであったのか判りませんが、石蓋をした

上に建物が建てられていたものと想定され、この遺構は温突と考えられます。

温突は、朝鮮半島や大陸で使用されている床暖房施設のことです。煙道がこのように屈曲している構造は比較的古い時期のものです。

穴太地域には、独特の構造をした横穴式石室をもつ古墳が多く築かれ、切妻大壁造建物と呼ばれる住居跡が発見されるなど渡来人と関係深いところです。温突は、古代における日朝の交流を示す貴重な資料です。



十月・十一月の土曜講座

歴史博物館の「土曜講座」の十月・十一月の日程は、次のとおりです。

◇特別講座「大織冠の復元について」

(日時) 十月十二日 午後二時～三時三〇分

(講師) 山口特殊電線株式会社社長

山口善造氏

(定員) 一〇〇名

(内容) 「金属製金糸・銀糸」(蒙流)の製作と高槻市阿武山古墳発見の大織冠復元をおして

考える古代からの技術史。

◇「民俗学入門(正月行事)」

(日時) 十一月三十日、十二月七日、十二月十四日 午後二時～三時三〇分

(講師) 本館学芸員

(定員) 一〇〇名

(内容) 生活にとけこんだ伝統行事の中で、とくに正月行事に焦点を当てその意味を探ります。

受講ご希望の方は、ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、大津市歴史博物館までお申込みください。

「大織冠の復元について」はすでに応募を締め切しましたが、若干名の余裕がありますのでお申込みください。

「民俗学入門(正月行事)」の申込〆切は十一月十五日(多数の場合は抽選)。

●「大津の人物」を発刊

「ふるさと大津歴史文庫」シリーズの第八冊目の「大津の人物」を発刊。十月四日(火)に発売します。価格は一冊六百十円。詳しくは大津市歴史博物館へ。

博物館日記抄

平成3年7月
平成3年9月

7月16日 元興寺文化財研究所山内章氏来館。歴博Tシャツ・バッジ頒布はじめ。

20日 大津歴史文庫シリーズ第7『大津の名木』四千部を発刊

21日 収蔵庫燻蒸のため臨時休館(二十四日まで)

26日 京都国立博物館清風会一行来館

27日 土曜講座(古墳を調べる)

28日 大津市尾花川親友会所有の古文書箱寄託される

30日 県博物館協議会総会開かれる

8月1日 市立幼稚園保育主任研修会開かれる

2日 文化庁宮島新一文化財調査官・同小林達朗技官・上野良信県立琵琶湖文化館学芸員・井上満郎京都産業大学教授来館

3日 土曜講座(古墳を調べる)

7日 市立幼稚園長会研修会開かれる。大津夏まつり総おどりに企画展ののぼりをもって歴博チーム参加し注目をあびる

10日 土曜講座「雪野山古墳の発掘調査」(石原道洋八日市市教委技師)

13日 お盆休みで歴博入館者賑わう(十五日まで)

20日 県小・中学校社会科研究会夏期研修開かれる

21日 仏教大学通信教育部博物館課程者・金沢弘京都国立博物館学芸課長来館

22日 市小・中学校新入教員研修会開かれる。県書展(二十五日まで)

23日 福岡茂氏(県道路課)来館

24日 体験講座「古代の火のおこし方」(奈良俊哉 県文化財保護協会技師)

25日 特別講座「大津絵のこころ」(絵師四代目高橋松山氏)

30日 第三回企画展「庶民のいのり」近江の絵馬展「開場式およびレセプション」

31日 企画展一般公開

9月3日 井上満郎京都産業大学教授・武藤直同志社大学教授・兼康保明氏(県文化財保護課)来館。NHKテレビ・BBCテレビ取材

6日 鳴門市宇佐八幡宮一行来館

7日 特別講演会「絵馬の歴史と民俗」(岩井宏實 国立歴史民俗博物館教授)開く。木村重圭氏(兵庫県立博物館館長補佐)来館。MB Sテレビ取材

11日 岩佐静子氏(京都市)来館

12日 林屋辰三郎顧問・下坂守氏(京都国立博物館)来館

13日 開館以来観覧者数一〇万人目を迎える。山田大津市長から大津市内の石田淳子さんに花束・記念品を贈呈

14日 土曜講座(企画展列品解説)

15日 第三回企画展閉幕

博物館だより 第7号

発行日 平成三年十月一日

編集 大津市歴史博物館

発行所 大津市御陵町二二二

大津市歴史博物館 電話(〇七七五)二二二二〇〇代